

平成26年度 第4回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成26年11月20日(木)
午後2時～午後4時30分
場 所 蒲郡市役所新館5階庁議室

議題

(1) 平成27年度市民企画公募まちづくり助成金について

- 事務局から、昨年度の助成金事業からの改善点及び平成27年度スケジュール案を資料により説明。
 - ・ 2以上の団体による申請を促すため、実行委員会方式での申請ルールを明確にする。
 - ・ 申請しやすくするため申請書類を改善する(収支計画・決算書の項目統一など)。
 - ・ 公開審査会を平成27年3月1日(日)に行う第1案と3月22日(日)に行う第2案を提案。実績報告会を今後事業年度終了後の4月(統一地方選挙のときは5月)に開催する。
- 委員意見等
 - ・ 申請者の負担を軽くすることは良いことだと思う。
 - ・ リピーターの団体が伴走役となって、新規の申請を促すことが重要。
 - ・ はじめの一步部門をやめて全てエントリー型にしてもよい。
 - ・ 今後助成金のあり方を検討する上で指針の見直しを検討すべき。
 - ・ リピーターの持つノウハウを生かす仕組みも必要である。
 - ・ 市の事業に市民が参加するものがあるが、そこで関わった団体が助成金にエントリーするように誘導することも必要だと思う。
 - ・ 複数年申請ができるようになると柔軟性が出てくると思う。
 - ・ 実績報告書が提出されてから実績報告会を実施した方がよい。
- 結論
 - ・ 事務局案により助成金の募集を行う。
 - ・ 公開審査会を平成27年3月1日(日)に行う。審査員の選任は事務局に一任する。
 - ・ 実績報告会を今後事業年度終了後の4月に行う。

(2) 情報交換会の開催について

- 事務局から実施案を資料により説明。
 - ・ 今年度は過去の助成金団体と情報共有を行い、助成金終了後の活動の参考にしてもらう。
 - ・ 平成27年1月11日(日)午後勤労福祉会館で実施する案を提案。
- 委員意見等
 - ・ プレゼン型よりもワークショップ型の方が開催趣旨に合致する。
 - ・ 立食パーティーのようなスタイルで行うと意見が弾むと思う。
- 結論

- ・ 事務局案により意見公開会を実施する。
- (3) 協働まちづくり事業の総括について
- 事務局から、前回に引き続き総括に資する資料の作成を進めていることを資料により説明。
 - ・ 協働モデル事業とまちづくり賞の実績を別紙で作成。
 - ・ まちづくり会議での成果が目に見える形にすべく資料作成。
 - ・ 成果は大きく分けて3点と考える。
 - ① 協働モデル事業が行政の施策として継続された（食育プロジェクト）。
 - ② 社会課題からモデル事業を検討し、実施団体を選定した（市民参加型育苗事業）。通常は自らがやりたいことを事業にするという社会の流れの逆を実現した。
 - ③ 市民と行政との協働の後退感を覚える事例が散見したことにより、市民と行政との意見交換の場を開催した。
 - 委員意見等
 - ・ 成果の3点が見える年表作りが必要。
 - ・ こうした資料を基に次の委員に引き継いでもらうことが重要。
 - ・ 市長と懇談を行う機会を持つてはどうか。
 - ・ 基金の使い方も今後検討すべきだと思う。
 - ・ 人にやさしいまちづくりは、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインと変遷を遂げてきている。多様な人を巻き込み一緒になって議論、検討することが協働のまちづくりにつながると思う。
 - 結論
 - ・ 引き続き事務局において原案を作成し、委員の意見を集約する。

その他（事務局から）

- 事務局から、現在の委員の任期が平成27年5月までであり、今後委員の公募を広報等で行う予定であることを説明した。これを受け、会長から、今後も継続して議論を進めるためにも現委員に残ってほしいとの発言があり、事務局が個別に委員の意向を確認することとされた。
- 協働モデル事業について、事務局との間の事務手続が進んだこと等を説明し、次回小田委員から進捗状況を報告してもらうこととされた。

次回会議は1月8日（木）又は22日（木）を予定。後日事務局から日程調整を行う。

会議欠席者 西川良継委員、尾崎勝委員、小田泰久委員、鈴木将浩委員、大原義文委員
委員数11人中出席委員6人（会議成立）